



## レノファ山口FC

## エコな応援グッズ「竹クラーベ」による、地域課題解決 1/2

全国4位の竹林面積を誇る山口県。竹は放置すると、雑木林を侵食し、土砂崩れなど災害を引き起こす可能性もあります。レノファ山口は梶トクヤマ、周南市、サポーターはじめ地域の皆様と共に、竹の有効活用によるエコな応援具「竹クラーベ」を制作し、地域課題の解決を図りながら、新たな応援スタイルの創出を目指します。



**活動場所** 周南市金剛山公園、徳山商工高等学校、維新みらいふスタジアム、株式会社トクヤマ



**協働者**

企業、住民、学校、行政、サポーター

**協働者名**

株式会社トクヤマ、周南市、徳山商工高等学校、サポーター



**協働者の声** 株式会社トクヤマ／友村 浩二郎 氏



放置竹林を「竹クラーベ」という応援楽器へと新しい価値に生まれ変える取り組みをレノファ山口が持つ地域と繋ぐ力・発信力等を使う事で地域に大きく拡げる事が出来ました。今後は、使用済み竹クラーベをバイオマス発電の燃料とする等、地域循環共生圏へ発展させ、プロスポーツの新たな価値を見出す活動にしたいと思えます。



**活動詳細情報**

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)



**カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ**





レノファ山口FC

エコな応援グッズ「竹クラベ」による、地域課題解決 2/2

## Story

(活動の背景)

レノファ山口は、公民連携による地域課題の解決にチャレンジしています。

その中で、竹に注目した新たな取り組みを開始しました。

全国でも4位の竹林面積を誇る山口県。

竹は放置すると、土砂崩れなどの災害を引き起こす可能性があります。一方で、近年叫ばれるカーボンニュートラルの実現に向け、石炭に代わる新たなバイオマス燃料としての活用が期待されています。

(周南市・(株)トクヤマとの連携)

(株)トクヤマは、カーボンニュートラルに向けたアク



シヨンプランとして、県内の竹害問題に着目した、竹資源の発電燃料に活用する実証実験にも取り組んでおり、地域資源でもある竹を持続的に活用できる道を探っていました。また、社内制度で、通常業務とは別に、自分のやりたいテーマを基に部門の垣根を越えて集まったメンバーと共に新しい価値創造にチャレンジする「とくちゃれ」という制度があり、2021年にレノファ山口を応援すると共に、レノファの持つ力を活用して地域課題解決に取り組むPJチームが発足しました。このPJチームに、レノファ山口、周南市の職員が加わり、竹害問題への取り組みPR、環境問題に対する行動変容を地域に即すためのシンボルグッズとして、竹の打楽器「竹クラベ」が発案されました。

(竹クラベの製作)

竹クラベの製作は、放置竹林の伐採をレノファ社員、トクヤマ社員、周南市職員、サポーターで行い、伐採した竹の加工作業を地元の徳山商工高等学校の生徒とレノファ山口の選手にて協働で実施しました。



(スタジアムでの活用)

こうして製作した竹クラベは、コロナ禍で声の出せない応援が続く中で、竹を叩いて応援する新たなエコな応援スタイルとして、来場者への配布を行いました。

(今後の展開)

山口県全域に取り組みを拡げていくと共に、レノファ山口の新たな応援スタイルとして、「竹クラベ」をJリーグ全体に認知していただけるよう、取り組んでいきたいと思ひます。